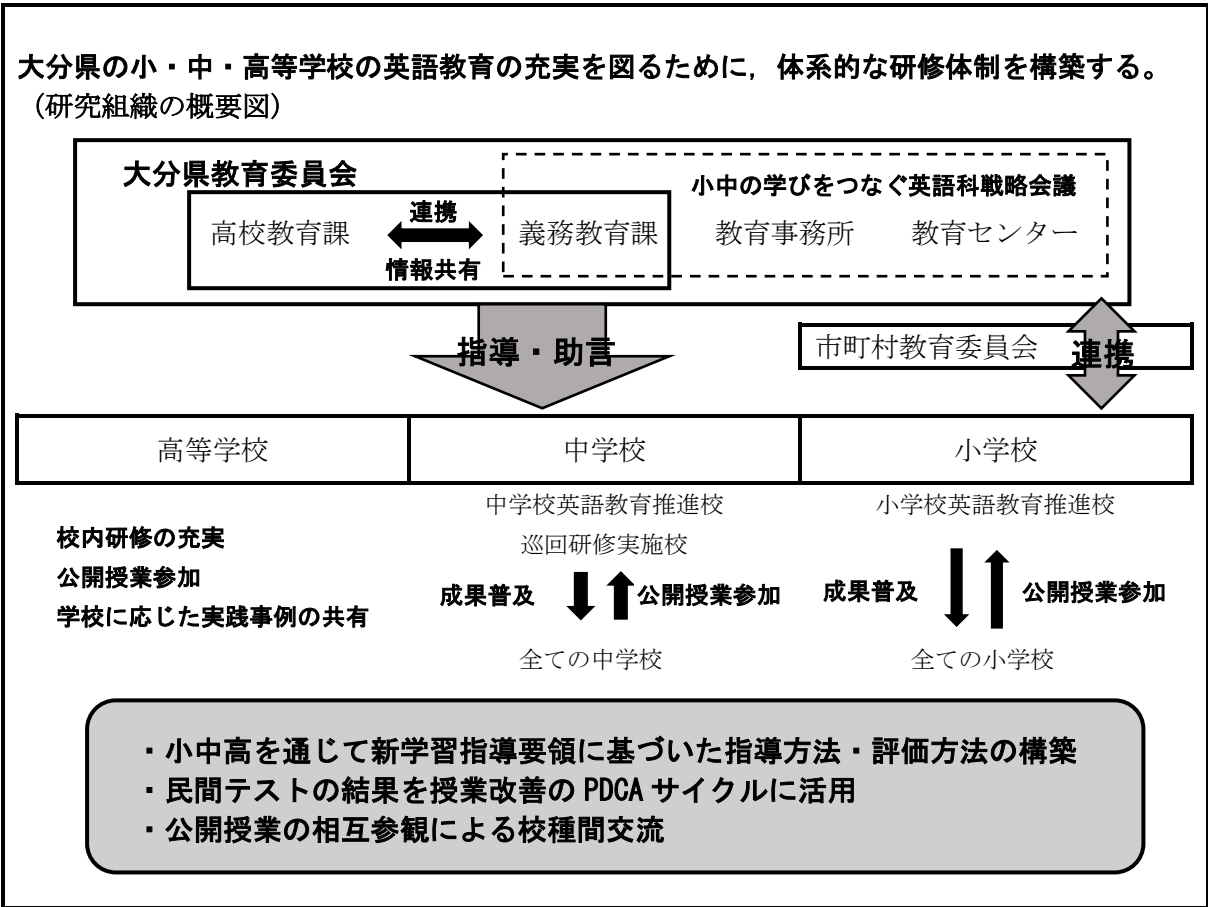


大分県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

(1) 本県英語教育の状況

① 英語担当教員の英語力 (R1 英語教育実施状況調査 県集計より)

中学校	40.9%	(受験経験率 82%)	※国の目標値	50%
高校	66.6%	(受験経験率 85%)	※国の目標値	75%

② 英語担当教員の授業における英語使用状況
(発話の75%以上を英語で行っている教師の割合)

中学校	14.1%	※全国	18.6%
高校	5.5%	※全国	12.6%

③ 求められる英語力を有する生徒の割合

中学校	38.2%	(受験経験率 38.7%)	※国の目標値	50%
高校	40.4%	(受験経験率 49.3%)	※国の目標値	50%

④ 生徒の英語による言語活動時間の割合
(50%程度以上英語による言語活動を生徒が行っている割合)

中学校	80.4%	全体平均	79.0%
高校	58.8%	全体平均	54.1%

⑤スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施率・回数

中学校	両方実施	79.9%	※全国	86.1%				
	平均実施回数	スピーキング	1年	2.33回	2年	2.67回	3年	2.99回
		ライティング	1年	2.36回	2年	2.53回	3年	2.67回
高校	両方実施	30.7%	※全国	36.4%				
	平均実施回数	スピーキング						
	普通科	Ⅰ	2.33回	Ⅱ	3.25回	Ⅲ	2.25回	
		英表	I 0.75回	英表	Ⅱ 1.36回			
	専門学科	Ⅰ	1.28回	Ⅱ	1.45回	英表	I 1.2回	
	平均実施回数	ライティング						
	普通科	Ⅰ	2.41回	Ⅱ	2.54回	Ⅲ	2.52回	
		英表	I 2.0回	英表	Ⅱ 4.08回			
	専門学科	Ⅰ	0.54回	Ⅱ	0.65回	英表	I 0.55回	

⑥ 「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の設定・公表及び達成状況の把握の状況

中学校	設定	100%	公表	22.0%	把握	54.2%	※全国	92.3%, 25.4%, 49.9%
高校	設定	100%	公表	39.1%	把握	50.0%	※全国	96.0%, 49.5%, 57.6%

⑦ 小学校・中学校・高等学校の連携状況

小学校と中学校の連携について

小中連携をしている 78.0% *全国 82.0%

情報交換 73.7% 交流 63.6% カリキュラム作成 24.6% ※全国 73.8%, 56.0%, 17.7%

高等学校と小学校・中学校との連携について

小学校との連携を実施した 34.2% *全国 14.0%

中学校との連携を実施した 60.5% *全国 60.5%

(2) 現状と課題分析

① 生徒の英語4技能をバランスよく育成するための授業改善

【上記(1)②, ③, ④との関連】

「生徒の英語による言語活動時間の割合(50%程度以上)」について、中学校では80.4%と概ね良好である一方で、「求められる英語力を有する生徒の割合」は38.2%と国の示す目標値(50%)に到達していない。高等学校では58.8%で授業中の生徒の英語を使う機会はあるが、「求められる英語力を有する生徒の割合」も40.4%と国の目標値(50%)に到達していない。

各校で定めた目標を達成するために必要な言語活動を授業に取り入れることや、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4技能を総合的に高めるには、それぞれの技能を関連付けた授業改善が必要であると考えられる。中学校では、言語活動での生徒の英語による言語活動時間に比例して英語力が向上するような効果的な授業となっているのか検証する必要がある。高校では「聞く」、「読む」技能と「話す」、「書く」技能が関連付けられた言語活動が実施されるよう一層の授業改善が求められる。

② 指導と評価の一体化を推進するためのパフォーマンステスト実施

【上記(1)⑤との関連】

中学校においては、スピーキングテストおよびライティングテストを両方実施の割合が高い。高等学校においても、スピーキングの実施回数が昨年度よりも33回増加、ライティングテストの実施回数は46回増加しており、一定の成果が見られる。

また、高等学校では、普通科では外部試験を受験した生徒が増え、教師は、受験結果を活用し、生徒の英語力を正確に把握することができたと思われる。

しかし、一方で、外部検定試験の結果は英語力を示す一つの目安ではあるが、全ての生

徒が受験するとは限らないので、教師が生徒の「求められている英語力」を判断するには、中高ともに「生徒に身に付けさせたい力」を適切に設定したうえで単元計画を構想し、言語活動が充実した日々の授業を行うことが求められる。定期考査での筆記試験だけでなく「話す」「書く」パフォーマンステストも適切に実施した上で評価する必要がある。

教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことが出来るようにするため、生徒の英語力を日頃の指導から測ることが出来るように、授業と評価の一体化を図り、パフォーマンステストを確実に実施することが求められる。

③ 生徒の確かな英語力を育成するための「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の活用 【上記（１）⑥との関連】

「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の設定は100%行われているが、上記①、②とも関連して、各学校での達成状況の把握や公表に引き続き課題を残している。つまり、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標を有効活用した授業や評価方法の実施に向けて、授業改善のためのPDCA サイクルによる検証・改善が求められている。「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の達成状況を適切に把握しながら、生徒の英語４技能の定着状況に基づいた効果的な指導の在り方を追求していくことが求められる。

（３）目標管理（全体）

- ・本県では平成26年10月に「大分県グローバル人材育成推進プラン」を策定した。その中で、小中高を通じた児童生徒の英語力や教員の英語指導力向上のため、平成27年度には、有識者や教員からなる「英語教育改善推進委員会」を立ち上げた。そこでは、本県における児童生徒の英語力の現状と課題を分析し、教員の英語力向上のための方策や「大分県発英語授業モデル」の開発等についても検討を行ってきた。現在、小学校では「小学校英語指導の手引き1～3」、中学校では「中学校英語科授業改善パンフレット」を作成・配布している。平成28年に策定した「大分県英語教育改善推進プラン」に基づき、大分県の英語教育改善の取組を着実に進めるとともに、その継続的な充実を今後とも図っていききたい。
- ・昨年度までの取組で、成果は見られたものの国の達成目標を下回っている項目、特に「生徒の英語力の向上【（１）③】」「パフォーマンステストの実施【（１）⑤】」「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の達成状況の把握【（１）⑥】については、最重点課題と捉え、最大限の効果を生み出すべく、昨年度以上の目標管理を進めていく。

「大分県英語教育改善推進プラン」（平成28年3月）

改善推進テーマ

『英語を使って、自分を語り、ふるさとを語る、大分っ子の育成』
～発信力の育成を目指した授業改善を通して～

（４）目標値（具体）R3目標

【高 校】

- ① 求められる英語力を有する教師の割合（％） 75%
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合（％） 50%
- ③ 学習到達目標の整備状況 設定（％） 100%
- 公表（％） 70%
- 達成状況の把握（％） 70%
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合（50%程度以上）（％） 45%
- ⑤ 両方実施状況 普通科 50% 専門学科 30%
- パフォーマンステスト実施状況(スピーキング)

- ・コミュⅠ 3.0回
- ・コミュⅡ 3.0回
- ・コミュⅢ 3.0回
- ・英 表Ⅰ 3.0回
- ・英 表Ⅱ 3.0回

パフォーマンステスト実施状況(ライティング)

- ・コミュⅠ 3.0回
- ・コミュⅡ 3.0回
- ・コミュⅢ 3.0回
- ・英 表Ⅰ 3.0回
- ・英 表Ⅱ 3.0回

- ⑥英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) 65%
(発話の半分以上を英語で行っている)

【中学校】

- ① 求められる英語力を有する教師の割合 (%) 50%
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) 50%
- ③ 学習到達目標の整備状況 設定 (%) 100%
公表 (%) 50%
達成状況の把握 (%) 70%
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) 70%
(50%程度以上)
- ⑤ 両方実施状況 80%
パフォーマンステスト実施状況(スピーキング) 3.0回
パフォーマンステスト実施状況(ライティング) 3.0回
- ⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) 78%
(発話の半分以上を英語で行っている)

(3) 研修の体系と内容の具体

＜計画的な研修の実施＞

(1) 『小学校英語指導力向上事業』

- ① 目的 児童の英語力の定着状況に基づく効果的な指導の在り方の普及
- ② 実施期間 令和3年度～令和5年度
- ③ 具体的な取組

【推進校を核とした英語指導力の向上・普及】

○民間テストの実施

- ・県は、小学校英語教育推進校として県内18校を指定する。
- ・推進校は、児童の正確な英語力を測定するための民間テストを実施する。
- ・推進校は、民間テストの結果を、各学校で設定する学習到達目標の達成に向けた授業改善のPDCAサイクルに活用することを通して、指導方法の工夫・改善を図る。

○公開授業の実施

- ・推進校は、児童の英語力の定着状況に基づいた効果的な指導の在り方を近隣の学校に年間1回公開し、児童の英語力向上と教師の英語指導力育成を目指す。
- ・全小学校から1名以上ずつ、推進校が行う公開授業に参加する。

【校内研修の実施】

- 全ての小学校は、これまでに県が作成してきた指導資料（校内研修DVD、小学校英語指導の手引き等）を参考にして、英語教育の充実につながる校内研修を年間3回以上実施する。
- ④ 研修の評価方法：
 - 校内研修に参加した教員対象のアンケートの実施
 - 各学校を対象に実施する「教育課程の編成・実施状況調査」における、学年ごとの学習到達目標の設定状況の把握
- ⑤ 教育委員会による支援：
 - 推進校連絡協議会の開催
 - ・推進校の趣旨や取組内容、民間テストの内容や実施方法等に関する共通理解を図る。
 - ・各推進校の課題及び改善方法に関する協議を通して、効果的な指導の在り方の普及に関する見通しをもたせる。
 - 指導助言
 - ・公開授業及び公開授業を実施するまでの授業づくりに関する指導助言を行う。
 - 情報発信
 - ・公開授業の様子を県教委ウェブサイト「大分県教育庁チャンネル」で動画配信する。

(2) 『中学校英語授業力パワーアップ研修』

- ① 目的 生徒の英語4技能の定着状況に基づく効果的な指導の在り方の普及
- ② 実施期間 令和3年度～令和4年度
- ③ 具体的な取組

【推進校を核とした英語指導力の向上・普及】

- 民間テストの実施
 - ・県は、中学校英語教育推進校として県内18校を指定する。
 - ・推進校は、生徒の正確な英語4技能を測定するための民間テストを実施する。
 - ・推進校は、民間テストの結果を、各学校で設定する学習到達目標の達成に向けた授業改善のPDCAサイクルに活用することを通して、指導方法の工夫・改善を図る。
- 公開授業の実施
 - ・推進校は、生徒の英語4技能の定着状況に基づいた効果的な指導の在り方を近隣の学校に年間1回公開し、生徒の英語力向上と教師の英語指導力育成を目指す。
 - ・全ての中学校英語科教員は、推進校が行う公開授業に参加する。

【巡回研修の実施】

- ・県は、中学校英語科教員の人数がおおよそ均等になるよう県内11地区を編成し、その中から巡回研修実施校（推進校を除く）を選定する。
- ・巡回研修実施校は、新学習指導要領の趣旨の着実な実施に向けてポイントとなる「単元を通した生徒に付けさせたい力の育成」「言語活動の充実」「ALTの効果的な活用」につながる公開授業を実施する。
- ・全ての中学校英語科教員は、巡回研修実施校が行う公開授業に参加する。
- ④ 研修の評価方法：
 - 授業改善のPDCAサイクル構築及び新学習指導要領の趣旨の理解度に関する参加者アンケートの実施
 - 英語教育実施状況調査における生徒の英語力の向上に関する把握
- ⑤ 教育委員会による支援：
 - 推進校連絡協議会の開催
 - ・推進校の趣旨や取組内容、民間テストの内容や実施方法等に関する共通理解を図る。
 - ・各推進校の課題及び改善方法に関する協議を通して、効果的な指導の在り方の普及に関する見通しをもたせる。
 - 指導助言

- ・公開授業及び公開授業を実施するまでの授業づくりに関する指導助言を行う。
- 情報発信
 - ・公開授業の様子を県教委ウェブサイト「大分県教育庁チャンネル」で動画配信する。

(3) 『大分県版英語 4 技能認定テスト』

- ① 目的 生徒の英語力の定着状況に基づく効果的な指導の在り方の普及
- ② 実施期間 令和3年度～5年度
- ③ 具体的な取組
 - 民間テストの実施
 - ・県立高等学校2年生を対象として、生徒の正確な英語力を測定するための民間テストを実施する。
 - ・実施校は、民間テストの結果を、各学校で設定する学習到達目標の達成に向けた授業改善のPDCAサイクルに活用することを通して、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・県は、新学習指導要領に基づいた指導方法・評価方法の構築を図るため、認定テストの結果を受けて、教員対象の全体研修会を年1回実施し、全県的に展開する。
 - 公開授業の実施
 - ・英語教育推進リーダーや指導教諭が中心となり、生徒の英語4技能の定着状況に基づいた効果的な指導の在り方を公開し、生徒の英語力向上と教師の英語指導力育成を目指す。
- ④ 研修の評価方法：
 - 英語教育実施状況調査における生徒の英語力の向上、教師の指導力向上に関する把握
 - 年間の研究テーマを踏まえた授業改善の進捗状況アンケートの実施
- ⑤ 教育委員会による支援：
 - 指導助言
 - ・公開授業及び授業研究における取組・状況に関する指導助言を行う。
 - 情報発信
 - ・公開授業の様子を県教委ウェブサイト「大分県教育庁チャンネル」で動画配信する。
 - ・県内英語教員共有フォルダによる指導・評価の実践例を共有する。
 - 高教研英語部会との連携
 - ・研究チームを設置し、指導・評価に関する協議を通して、効果的な指導・評価の在り方を研究し、県内に普及する。
- ⑥ 「大分県発英語授業モデル」の開発・普及
 - 地域や学校・学科等の特色に関連付けた4技能を高める授業の好事例を全県で共有
 - ・他教科で学習した内容を積極的に活用し、英語を用いて課題解決等を図る授業実践

(4) 小学校英語教育の早期化・教科化に対応するための指導力の向上につながる支援

①指導資料の作成

大分県教育委員会では、平成30年度から令和2年度にかけて「小学校英語指導の手引き」を作成し、学習指導要領の着実な実施につながるよう、外国語活動・外国語科の理解を深めることを目指してきた。これらの資料については、各学校における校内研修や授業づくり等に活用できるよう、県内全ての小学校教員に配布すると共に、大分県教育委員会ウェブサイトに掲載している。

- 小学校英語指導の手引き1（基礎編）：小学校外国語活動・外国語科の目標、言語活動、単元構成、新教材を活用した活動 等
- 小学校英語指導の手引き2（応用編）：目標と評価、言語活動、授業づくり 等
- 小学校英語指導の手引き3（実践編）：CAN-DO リスト形式の学習到達目標と設定例、単元計画作成の考え方、指導案作成例とポイント

<https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/tebiki3.html>

②授業動画の配信

平成30年度から令和2年度にかけて、小学校英語に関する15本の授業動画を県ウェブサイト（教育庁チャンネル）に掲載してきた。新教材の活用、言語活動の充実、他教科との関連など、学習指導要領の着実な実施につながる好事例を配信している。

<https://www.pref.oita.jp/site/movie/list21554-25332.html>

令和3年度は、(3) - (2)『小学校英語指導研修』において校内研修の充実に努めることとしており、作成した指導資料について積極的に活用するよう周知する。

(5) 小・中・校の系統的・体系的な校種間連携の取組

①小・中・高共通のテーマや目的のもとでの各校種における事業での授業改善

○「共通テーマ」

- ・「英語4技能向上（特に発信力）に向けた授業作り」
- ・「民間試験の測定による児童生徒の正確な英語4技能の評価に基づく授業改善のPDCAサイクルの確立」

○各校種における事業等

- ・小学校：小学校英語指導力向上研修
- ・中学校：中学校英語科授業力パワーアップ事業
- ・高等学校：大分県版英語4技能認定テスト

②公開授業の相互参観等

○小学校での学びの成果 ⇒ 中・高で発展的に生かす

- ・小学校・中学校の連携
推進校及び巡回研修実施校による公開授業への相互参観

- ・中学校・高等学校の連携
公開授業への相互参観

○情報発信・普及等

- ・県教育委員会ウェブサイト「大分県教育庁チャンネル」の動画等を活用する。
特に高等学校の教員には小学校・中学校の公開授業等の動画等を通じて、小中学校の学習内容や指導法の成果の普及に努め、高校での授業に発展的に生かし言語活動の充実を図る。

(4) 小学校教員の新規採用に係る県教育委員会の取組

①外部検定試験の受験促進

- ・各種研修会や学校訪問等における指導主事による外部検定試験の積極的受験の啓発

② 公立学校教員採用試験

本県では公立学校教員採用試験において、以下の制度により、外国語の指導で活躍できる人材確保に努めている。

- ・選考区分に小学校教諭免許と中学校（英語）教諭免許の資格を併せ持つ「小中学校連携教諭（英語）」を加え、また、小中学校連携教諭（英語）と中学校教諭（英語）を併せて出願できる併願制度を設置。
- ・小学校教諭の実技試験を英語のみとし、配点の引き上げ。

